二〇一五年四月一〇日

保育所のジャングルジムへ花吹雪　治男
奥津城の霊寧かれと落花舞ふ　はく子
春水をふふみし苔や手水鉢　さつき

二〇一五年四月九日

雑木山斑に笑ひ初めにけり　明日香
花筏分けゆく鯉の背鰭かな　満天
落花屑ガードレールに張りつきぬ　ひかり

二〇一五年四月八日

育てたる子らみな遠し葱坊主　よし女
石畳踏みどころなき花の屑　ぽんこ
さざ波に散り散りとなる花筏　菜々
宿下駄で外湯めぐりす春の宵　宏虎
激つ瀬にさしかかりたる花筏　ひかり
芝庭や隈なく落花畳敷く　さつき

二〇一五年四月七日

あつあつの珈琲所望花の冷　満天
花吹雪ケーブルカーの玻璃窓に　さつき
ひしと子を抱く地蔵や百千鳥　菜々

二〇一五年四月六日

のどけしやベビーラッシュの動物園　かかし
鳰そこと指されしところ波紋のみ　泰山
花下の道デイサービス車ゆつくりと　こすもす
通院の帰りは花の道選ぶ　はく子
春陰に点りし赤は交番所　うつぎ

二〇一五年四月五日

花堤見よと徐行す路線バス　さつき
湖ま青とどまりがたき落花かな　よし女
廃校と決まりし花の母校かな　豆狸
遠足のリュックにゆるる守り札　ともえ

二〇一五年四月四日

雨がくるぞと囃しそむ蛙かな　あさこ
存問の蝶パンダ舎へ麒麟舎へ　うつぎ
杣の道塞ぎてここだ落椿　豆狸
権現の磴は胸突き花嵐　菜々
三線の調べに集ふ花の下　さつき

毎日句会みのる選・二〇一五年四月一二日